

令和6（2024）年度 資源評価調査報告書（拡大種）

種名	ミギガレイ	対象水域	太平洋北部（青森～福島）
担当機関名	海洋生物環境研究所、水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、青森県産業技術センター水産総合研究所、岩手県水産技術センター、宮城県水産技術総合センター、福島県水産資源研究所、福島県水産海洋研究センター	協力機関名	

1. 調査の概要

佐井村以東の青森県から福島県にいたる各県が過去に遡ってまとめた主要港の月別漁業種別水揚げ量をもとに、本種の主要な漁業種別を抽出するとともに、海域別や月別の漁獲量を求め、主産地や主漁期を調べた。また、各県の漁獲量集計値の変動から、現在の資源の水準および動向を判断した。

2. 漁業の概要

本種は主に底びき網で漁獲される。2010年以前は全体の漁獲量に占める小型底びき網漁業の漁獲量の割合は19～40%であったが、2011年以降は低下し、3～17%となっている（図1）。そのため、2011年以降はほとんど沖合底びき網漁業による漁獲となっている。漁獲量は青森県と岩手県では少なく、宮城県と福島県による漁獲が多い（図2）。岩手県から福島県の漁獲量データがある2000年以降では、2000～2010年の漁獲量は238トン～524トンで、2008年が524トンと突出して多かった（2007年以降は青森県も含む）。2011年以降は東日本大震災（以下、「震災」という）の影響によって福島県の漁獲量が大幅に減少し、2011～2023年の合計漁獲量は96～182トンの範囲であった（表1）。岩手県および宮城県では、直近5年間（2019～2023年）の漁獲量は9～12月に多く、7～8月に少ない傾向が認められる（図3）。

3. 生物学的特性

(1) 分布・回遊：北海道渡島半島～九州北岸の日本海沿岸、北海道噴火湾～千葉県銚子の太平洋沿岸、駿河湾、土佐湾、九州西方の東シナ海、韓国釜山（山田ほか 2007、中坊・土居内 2013）。水深 100～200 m の砂泥底に分布。福島県沖では産卵のために浅海域に移動することが示唆されている（岩崎 2011）。

- (2) 年齢・成長：東北地方太平洋岸では、雄では3歳で体長11 cm、5歳で15 cmに達し、雌では3歳で12 cm、5歳で15 cm、9歳で20 cmに達する。また、最高年齢は雄で5歳、雌で9歳まで確認されている（石戸 1964）。
- (3) 成熟・産卵：東北地方太平洋岸の繁殖期は9～12月で、9～10月にピークがある（Narimatsu et al. 2005）。1繁殖期の産卵は複数回に分けて行われる。成熟後は毎年繁殖に参加する（Narimatsu et al. 2005）。
- (4) 被捕食関係：東シナ海ではクモヒトデ類、多毛類、エビ・カニ類、二枚貝類を捕食し、とくにクモヒトデ類、多毛類が多い（山田ほか 2007）。捕食者は確認されていない。

4. 資源状態

上述のように青森県から福島県の漁獲量が揃ったのは2007年からである。さらに震災の影響により、2011年以降の福島県の漁獲努力量が大幅に低下しており、同県の漁獲量は資源状態を反映しているわけではないと考えられる。そこで、比較的長期データがある岩手県と宮城県の2000～2023年の漁獲量を用いて水準と動向を判断した（図4）。水準の判断には両県の合計漁獲量の平均値を用い、漁獲量の平均値よりも30%以上多い場合を高位水準、30%以上少ない場合を低位水準とした（高中位境界152トン、中低位境界82トン）。2023年の岩手県、宮城県の合計漁獲量は74トンで平均値の64%に相当することから、水準は低位と判断した。また、直近5年間（2019～2023年）の漁獲量は減少後に若干増加していることから、動向は横ばいと判断した。

5. その他

資源回復のための取り組みは行われていない。生物特性や資源構造に不明な点が多く、さらなる情報収集が必要である。

6. 引用文献

- 石戸芳男 (1964) 八戸近海のソウハチ・ムシガレイ・ミギガレイの年齢及び生長について. 東北水研報, **24**, 73–80.
- 岩崎高資 (2011) 福島県沖におけるミギガレイの分布について. 東北底魚研究, **31**, 113–120.
- 中坊徹次・土居内 龍 (2013) カレイ科. 「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」中坊徹次編, 東海大学出版会, 秦野, 1675–1683.
- Narimatsu, Y., D. Kitagawa, T. Hattori and H. Onodera (2005) Reproductive biology of female Rikuzen sole (*Dexistes rikuzenius*). Fish. Bull., **103**, 635–647.
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次 (2007) 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野, 1262 pp.

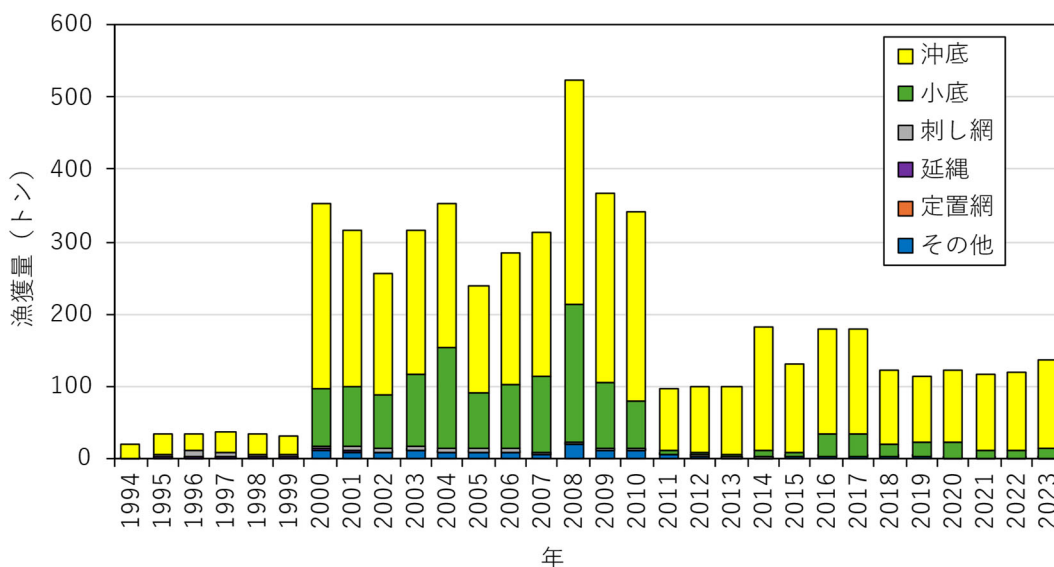


図1. ミギガレイの漁業種類別漁獲量 集計に用いた期間は県によって異なる。

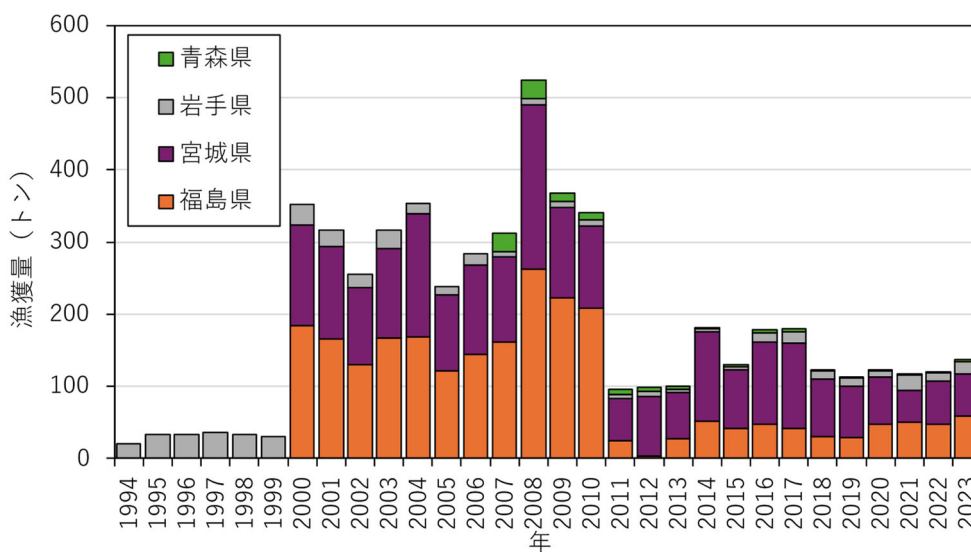


図2. ミギガレイの県別漁獲量 集計に用いた期間は県によって異なる。

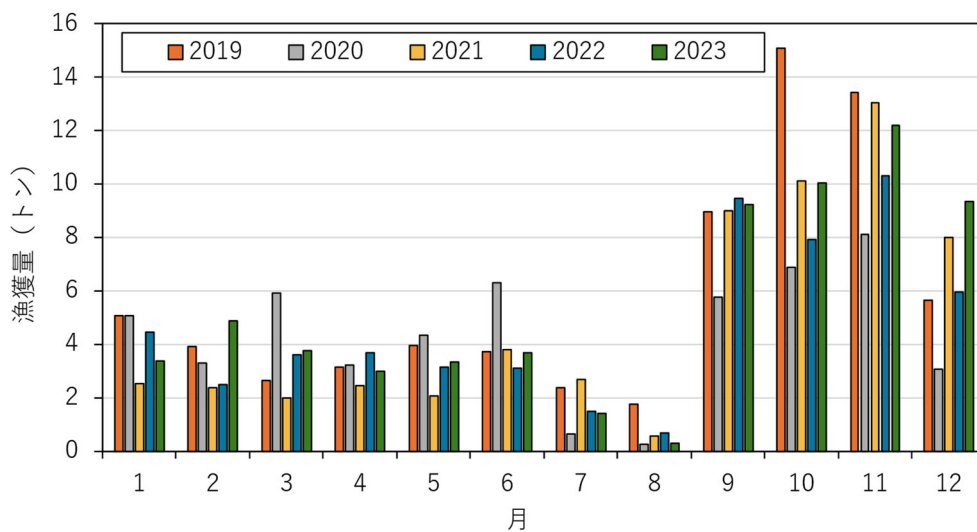


図3. 岩手県および宮城県におけるミギガレイの月別漁獲量

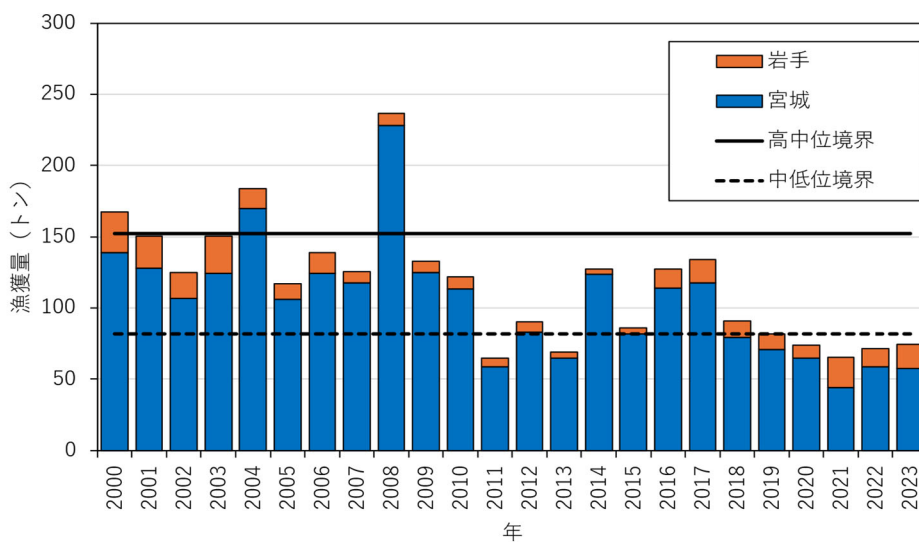


図4. 岩手県および宮城県におけるミギガレイの漁獲量の推移

表 1. 各県の漁獲量の年変化（トン）

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
青森県	0	0	0	0	0	0	0	25	25	11	11	7
岩手県	28	22	18	26	14	11	15	8	8	8	8	6
宮城県	139	128	107	124	170	106	124	118	228	125	114	59
福島県	184	166	130	167	169	121	144	161	263	223	208	25
合計	352	316	256	317	353	238	283	312	524	367	341	96

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
青森県	5	4	2	2	4	3	3	1	2	1	1	3
岩手県	7	4	4	5	13	16	11	11	9	22	13	17
宮城県	83	65	124	82	114	118	80	71	65	44	59	57
福島県	3	27	52	41	47	42	30	30	47	50	48	60
合計	99	100	182	130	178	180	123	113	123	117	121	137